

イクメンパパが振り返る、
初心者パパだったあの時

イクメン 研究所 ジャーナル

No.4

発行者：川崎市男女共同参画センター

発行月：令和3年3月



イクメン研究所

FREE



家庭でも地域でもイキイキと過ごす
パパたちでつくる「イクメン研究所」



パパはいつからパパになるか。

赤ちゃんの顔を実際に見ないとパパになった実感がわきにくい。なんて昔の話で、最近はエコー写真で胎児の状態が確認できます。つわりという形ですが親にちゃんと影響を与えるし、育つし、動きもします。しゃっくりだってします。お腹の外にいるか中にいるかという違いだけ。ママは妊娠中、ずっと抱っこと添い寝で放してもらえない状態と同じ。24時間の抱っこはそれだけで相当な労働で、パパが何もしなければ、ママはワンオペ状態です。ご飯を作ればそれがママを通して赤ちゃんの栄養になります。買い物や洗濯を代われば負担が減ります。パパだってママと同じタイミングでパパになることができる、と考えるとパパも頑張りがいが出ますよね。

連載

育児にも積極的にかかわりたいプレパパに贈る

「そのどこ、どうだった？」

ババママは仲良しが一番、と思っているもつい「しまった」と思う瞬間はでてくるわけで。先日、ご飯を食べていると妊娠中のママから子ども用品の買い物について相談がありました。それなりの出費になりそうな話。つい先日も同じような話があり、物入りだなあと思っていたところでした。一家のお財布係として申請合いはできません。「お金がはいったら考えよう」と返すと、ママは一気に不機嫌に。不機嫌になられたって、無い袖は振れません。パパはちゃんとママの言い分を聞いて考えて返したのに、なんで不機嫌になられなきゃいけないのかとこっちもムツとしました。結局Dパパ夫婦はこのあと話し合って和解しました。ママの言い分をきいたDパパの感想は「なるほどね」でした。さて問題です。なぜママは不機嫌になったのでしょうか。答えはWEB版の続きで。

続きはWEBで⇒

効果大
買ったものより
日用品



遊びの世界



このコーナーは、流行りの紙とウェブの連携企画。プレパパに(プレママにも)役立つ情報を発信しています。待ち合いの暇つぶし以上の質を保障！



イクメン研究所のメンバーも、新生児～1歳くらいのまだ反応が乏しい時期にどう遊んでいいかわからないという経験あり。パパがスマホ片手に留守番?! 今回は、そんな時のヒントになれば幸いです。

私の保育士の経験からも解決策のキーワードは「わくわく、ドキドキ、たのしい！」

多くの子どもたちに共通していること、それは「楽しい！」という感覚を求めていることです。0歳児だと、あぐらの上に座ってゆったり過ごしたり、指や足の裏をちょっとくすぐったりしても。赤や青などの原色のボールを右から左へ斜め上からスピードを変えながら転がして遊ぶこちらが繰り返しに見える遊びも新鮮な様子。

チラシをびりびり破いたり、広告紙をくしゃくしゃにしたりして音で遊んでも。身近にあるものでマラカスのようなものをつくるのもおすすめです。こどものにぎれる小さ目のボトルにどんぐりや色のついたビーズなどを入れて振ります。(中身が飛び出さないようにしっかりテープでとめましょう)。ゲームや動画などのコンテンツに頼ることなく一緒にアイコンタクトを取りながら楽しめる遊び(手や足などの色々な動き)の中で、喜怒哀楽を共有、共感することが近道です。今は簡単に出来るカラダ遊びなど、動画サイトでも数多く取り上げられているので参考にしてみてください。



とかくパパの遊びって体をつかったダイナミックなものになりがちですが、こどもの「遊び」の範囲は広くて、お絵かきやシールを貼ったりや、卵をかき混ぜてみるなんてのも面白がってやります。不安がらずに、ぜひ、かかわる時間をつくってみてください。子育て支援センターのスタッフや保育士にもぜひ声をかけて、遊びのコツやその月齢にあった遊びの知恵を引き出してみてください。(はっしーパパ)

パパの子育て奮闘エピソード

市民の方から応募いただいたエピソードを紹介



エピソード募集中です

【ブーブー星人】

男児 2才の頃のこと。口をブーツと鳴らすのが保育園ではやっているようでずーっとやっており、食事中にもふざけて困りました。近所の図書館の方のアドバイスで、逆にブーブー星人! とはやしたてていたら恥ずかしくなったのかすぐに止めました。(Focacciaさん)

【服を選ぶとき】

2歳を過ぎると、なんでも「イヤ!」と返事が返ってくる俗に言うイヤイヤ期に突入してきますが、親である私たちも特に頭を悩まされる頃では無いでしょうか。そんな中でもとても幸せになるエピソードを覚えています。イヤイヤ期の時には何に対しても強いこだわりを示す時だと思いますが、服を選ぶときも同じです。ウチの子も相当こだわりが強くなんでもかんでも親の思惑とは真逆の反応をしていました。そんな時なぜか服を選ぶときに、僕と同じ柄やお揃いの服を選ぶときだけは素直に受け入れて、必ず「パパと一緒に?」といって着てくれます。その時の僕のどや顔ぶりは相当なものです(笑)。(ウビパパさん)

編集・発行

すくらむ21「イクメン研究所」



<https://www.facebook.com/scrum21.ikimen>

このジャーナルは、イクメン研究所のメンバーが企画・執筆を行う手作りのフリーペーパーです。

詳しくは、すくらむ21
までお問合せください。

川崎市男女共同参画センター (すくらむ21)

電話: 044-813-0808 FAX: 044-813-0864

すくらむ21

検索

<https://www.scrum21.or.jp/>